

---

# 青と白（せつなポエム4篇収録2012文字）

敬愛

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

青と白（せつなポエム4篇収録2012文字）

### 【Nコード】

N3544BA

### 【作者名】

敬愛

### 【あらすじ】

今回は青と白をテーマに書きましたよー。

季節は夏と冬。春と秋もいつか書きたいですね。赤と黄色で。

(前書き)

冬の唄が多目です。白と云えばやはり雪なので。夏ポエムも一応作りましたが。

「泡の様に弾けて」

ループしてるMusicに心重ね合わせて

Dance Dance

ハイカラなブルーカラー

金をばら撒け

友人、知人に紹介しているカワイイあの娘は  
二股かけてる

Lie Lie Lie 冷たくて

Lie Lie Lie それが心地良い街

クラブで踊り明かして午前3時

それから飲みに出かけ短針が半周する

音楽は力を持っている

音楽は熱を帯びている

馬鹿みたいに遊んでるけど

内心怯え将来どうすればいいのかわからず・・・

心が多面的な輝きを持ち勾玉の様に奇妙な形をしているなら  
僕達には今すぐオペが必要だ

道を踏み外し崖から転落

労力は無駄で揚力に身を預ける  
宝玉はくすんでいく

ループしてる Music に心重ね合わせて  
Dance Dance

今は心赴くまま眠れない夜でも  
シャッフルしたランプの中にはジョーカーは必ずいる  
死神の姿をしたそいつを拳銃で撃ち殺せ

若いときはしたい事を行えばいい  
太陽は落ちない  
ならば僕らの青春も無限だろうか  
夢幻だろうか      ループする  
デジャブする      君の裸体に釘付けになる  
青と白のビデオ

ああ、音楽よ      生まれ変わり続けるがいいさ  
消費されて行く運命でも僕らには一夜  
錆び付いた位置を      死地をここだと決める  
黒い十字架の立つ場所で流れる音楽と Dance Dance

「私は枯れて行く」  
スカイブルーのマフラー  
青いブレザーに白いシャツの私は  
寂しくバスを待っている

冬は曇天が多くて化粧っ気の無い私は  
少し青ざめている

学校に行く理由が見当たらない

一学期は不登校だった

二学期初めて登校しようと思った

背中に黒いギターケースを背負った君は

ミュージシャン志望

家では初音ミクやったりギター弾いたり

お母さんに「ご飯食べないの？」と聞かれても聞こえないフリ

部屋は高2の女生徒にはお似合いなのかドラえもんの抱き枕

学校に行くときみんな「心配してたよ」と言う

その内の何人かは私の名前を忘れてるし

私も忘れてる

誰か気付いて欲しい 私ギター持ってきたの

ボカロで曲作ってニコ動にUP

今では誰でもやってる 私の曲なんて所詮ガキの戯言だ

歌手になりたいな

不登校の私に用意された席は向かって右奥で白いカーテン

青い名も知らぬ花の活けられた花瓶

外が良く見える 今日珍しく晴れ 青い空と白い雲

私は枯れている 正確に言えば枯れて行く この狭い教室で

「冬恋」

残雪の残った冬のベンチで肉まんを分け合う2人  
ふさふさとしたファーはむずがゆい 2人抱き合うのなら

ああ、空はまだ高く雲がたれこめている  
吐く息は白く青い手袋を君に貸した

男の子は青で女の子はピンク  
ん？ランドセルの話さ  
ねえ子供には出来ない事しようよ  
と君が言う

僕は君を大切にしたいからしないと答える  
ブーツと膨れる君の頬 ほら子供だろ

チョコミントとヴァニライスの好きな君  
夏になったら食べようね

君は僕の何処が好きなの？  
ぶつきらぼうな所そう答える君  
何処がぶつきらぼうなのさ  
貴方ジーンズ青い長靴に突っ込んでる所  
お父さんみたい

そう君はお父さん知らない  
僕に父の面影を見てるのだろうか  
毎日ね遺影に手を合わせるの  
そしたら不思議と貴方とだぶって  
何か切なくて呼吸が荒くなるの

ふーんと生返事したもののガチ恋かも？  
ならばバッチコーイです

コートを貸してあげよう 僕が大枚はたいて買った  
君はいいわよと答える

それでも僕はコートを脱ぎ君の肩にかけた  
突然泣き出す君 どうしたのかな

君は辺りの積もった雪をまさぐる  
青のカラコン落としちゃったの

僕も一緒に探すよ 踏まない様に摺り足で  
こんな事を言った ほら空が青いほど雲は光るだろう？

青と白は反発色だからすぐ見つかるよ  
嘘だったけど あ、あったあつたと喜ぶ君

愛おしいほど純粋な君に  
狂おしいほど一途な君に

僕は言った 「ホッペにならチューしてもいいよ」って

「白い砂浜 青い海」

白い砂浜 青い海

浜辺でパラソル差しながらブルーハワイ飲んでる君  
僕ハアハア だって日焼け止めクリーム塗ってって言われたしー

白い水着を震える手で取り除いて行く  
ここノーディストビーチなのよ



君って最高に大胆 改めて思う 顕にしていいるからなんて  
ヌルヌル感が気持ちイイ スベスベのお肌にクラクラ

裸になって何が悪い！ むー正論 しかしこんな破廉恥な場所にな  
ければ

犯罪なのよ 恥を知りなさい

何考えてるの？早く塗ってよ 君が髪をかき上げたから上向きにな  
るのですとー？

と思っただけど違った(汗)

それにしてもワイハは暑いわ

君はブルーとホワイトのサンバイザー

燦燦降り注ぐSunshin

ふっと気になった 楽しい時間にも終りが来るのだと

こんな浮かれた気分になれたのはホント久しぶり

彼女のFreshな体に僕は今まで触った事が無かったから  
付き合って半年

遂にスキンシップ獲ったとーと財布に入れてあるスキン掲げる

今夜君を抱きたい 青い間接照明の中の君の白い素肌

ちよつとね貴方早くオイル塗ってよ・・・

僕の頭の中は妄想で熱暴走

冷ましてくれるのは君のクールな言動

ふー今夜は無いな

だつて君つて時々南極探検隊並に重装備  
だからここまでイケてそれだけでもう天国  
でも君のココナッツミルクも飲みたいな笑

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3544ba/>

---

青と白（せつなポエム4篇収録2012文字）

2012年1月9日03時58分発行